

2019 年行事予定

- 5月19日(日) 第88回教育セミナー
5月31日(金) 第29回日本臨床検査専門
~6月1日(土) 医会春季大会、第1回全
国幹事会、第54回日本臨
床検査専門医会総会、第
9回生涯教育講演会
7月19日(金) 第36回臨床検査振興セミ
ナー
9月7日(土) 第2回常任幹事会
11月11日(月) 臨床検査の日(日臨技：
全国検査と健康展)
11月21日(木) 第66回日本臨床検査医学
~24日(日) 会学術集会、第2回全国
幹事会、第55回日本臨床
検査専門医会総会・講演
会
12月21日(土) 第3回常任幹事会

【目次】

- | | |
|-----|---|
| p.1 | 巻頭言：第29回春季大会にあたって |
| p.2 | 事務局からのお知らせ、平成30年度第
二回(第53回)総会報告、2019年度予算 |
| p.3 | 2018年総会講演会報告、第65回日本臨
床検査医学会学術集会関連行事報告、
2018年「全国検査と健康展」報告、
2019年第88回教育セミナーのお知ら
せ、第9回生涯教育講演会のお知らせ、
2019年第29回春季大会のお知らせ、
2019年度第36回臨床検査振興セミ
ナーのお知らせ、2019年度行事予定 |
| p.4 | 臨床検査振興協議会ノベルティグッズ
のご案内、2019年度会費振込みの願
い、住所変更・所属変更に伴う事務局
への通知について、医学部における臨
床検査医学教育の実態調査のまとめ~
その1~、会員の声：臨床検査医を指
すことになった動機 |
| p.5 | 会員の声：臨床検査専門医取得までの
軌跡とこれから、臨床検査専門医に
加えていただきました！ |
| p.6 | 会員の声：臨床検査専門医試験を受験
して、編集後記 |

巻 頭 言

第29回日本臨床検査専門医会春季大会長
横崎 典哉

第29回春季大会にあたって

第29回日本臨床検査専門医会春季大会を2019年5月31日・6月1日に広島市において開催することとなりました。初夏の瀬戸内の海産物、そしてプロスポーツをお楽しみいただける広島で開催いたします。是非多くの会員の皆様にご参加いただければと思っております。

今回のメインテーマは「臨床検査専門医 Update!」といたしました。臨床検査専門医は「一般臨床検査医学・臨床化学」「臨床血液学」「臨床微生物学」「臨床免疫学・輸血学」「遺伝子関連検査学」「臨床生理学」という広範な領域の知識を常に更新しなければならないとともに、「医療安全」「感染対策」「医療倫理」「臨床研究」などの専門医として共通に求められる基本領域の知識も常に更新することが求められます。本春季大会では2日間という短い期間ですが、これらをできるだけバランスよくアップデートできるような企画を考えました。大会第1日目の「臨床検査専門医 catch up セミナー」では上記に挙げた各領域の内4領域についてスペシャリストによるそれぞれ30分程度のミニレクチャー4題を予定しております。特にゲノム医療については大会第2日目に広島大学医歯薬保健学研究科分子病理学の安井弥教授に特別講演として「分子病理学の来し方・行く先とゲノム医療における病理学(仮題)」と題してご講演いただく予定です。また大会第2日目には私ども春季大会として「医療安全シンポジウム」を、また日本臨床検査専門医会教育委員会企画の生涯教育講演として広島大学病院感染症科大毛宏喜教授に「感染症診療における検査室の重要性」と題して「感染対策」についての講演を、川崎医科大学検査診断学通山薫教授に「残余検体を扱う研究、進んでいますか? -既存試料使用の倫理指針-」と題して「医療倫理」についての講演を予定しています。さらに、専門研修プログラムにおける指導医には5年の間に最低1回の「指導医講習」を受ける必要がありますが、こちらも大会第1日目に自治医科大学臨床検査医学教授の山田俊幸教授にお願いして企画しております。これらの企画はいずれも日本専門医機構認定専門医資格更新における基本領域あるいは臨床検査専門領域講習となっておりますので、これを機会にぜひ参加いただければと思います。

第29回日本臨床検査専門医会春季大会が実りある有意義な会になりますよう、誠心誠意準備いたしますので、全国各地からのご参加を心よりお待ちしております。また、充実した会となりますよう会員の皆様方のご指導、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

ログインされましたか?
臨床検査専門医ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclap.org

HPアドレス (QRコードも対応)
<http://www.jaclap.org/qa/login>



【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2019年2月20日現在数795名、専門医636名

【新入会員】(敬称略)

(2018年3月以降の新入会員となります)

大野 賀世：順天堂大学医学部 臨床検査医学
 佐藤 雅哉：東京大学医学部附属病院 検査部
 榎奥健一郎：東京大学医学部附属病院 消化器内科
 大井 幸昌：大阪医科大学附属病院 感染対策室
 野上 彩子：東京医科歯科大学医学部附属病院 検査部
 福島 裕子：大阪市立総合医療センター 病理診断科
 賀来 敬仁：長崎大学病院 検査部
 荒岡 秀樹：虎の門病院 臨床感染症部
 小野澤真弘：北海道大学医学研究院 血液内科
 高澤 徳彦：東北医科薬科大学若林病院・東北医科薬科大学
 医学部内科学血液・リウマチ科
 海老名俊明：横浜市立大学附属市民総合医療センター
 臨床検査科
 中野 哲志：京都大学医学部附属病院 検査部
 安本 篤史：東京大学医学部附属病院 検査部
 大崎 浩一：久留米大学病院臨床検査部/血液・腫瘍内科
 大枝 敏：佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
 山谷 琴子：順天堂大学大学院医学系研究科
 桐越 博之：横浜市立大学附属病院 臨床検査部
 清水 博之：藤沢市民病院 臨床検査科
 赤木 究：埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科
 吉田 聡：富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部
 石津 英喜：埼玉協同病院 病理部
 和仁 洋治：姫路赤十字病院 臨床検査科
 越智 小枝：東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
 杉田 純一：北海道大学病院 血液内科
 法正 恵子：鳥取大学医学部附属病院 検査部
 杉本 和史：三重大学医学部附属病院 中央検査部
 田中 信悟：札幌医科大学医学部 感染制御・
 臨床検査医学講座
 山本 英喜：国立病院機構 呉医療センター・
 中国がんセンター
 中山 享之：愛知医科大学 中央臨床検査部
 高橋 聡：札幌医科大学医学部 感染制御・
 臨床検査医学講座
 今村美菜子：琉球大学医学部 先進ゲノム検査医学講座
 沖津 庸子：東北医科薬科大学病院 輸血部

【退会会員】(敬称略)(2018年4月以降の退会会員となります)

柴田 偉雄
 岡本 康幸
 由谷 親夫
 陳 戈林
 大原 智子
 加藤 元一
 桑島 正道：総合病院回生病院糖尿病センター
 戸塚 恭一
 中野 龍治：社会医療法人財団池友会福岡和白病院
 毛利 博：藤枝市立総合病院
 清水 利昭：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 血管代謝
 病態解析学

《訃報》

岡村 一博先生 2018/4/30 ご逝去
 内山 幸信先生 2018/9/2 ご逝去
 水岡 慶二先生 2018/11 ご逝去
 米満 博先生 2018/11/20 ご逝去
 ご冥福をお祈り申し上げます。

【平成30年度第二回(第53回)総会報告】

第53回日本臨床検査専門医会総会は2018年11月15日(木)に京王プラザホテルにて開催されました。

＜審議事項＞

第一号議案：2019年度予算について(別掲)
 第二号議案：2019年度名誉会員・有功会員の推薦について
 第三号議案：会則改定案

会則 第8条2

有功会員の称号は、満70歳を過ぎた正会員で10年以上の会員歴があり、本会に貢献をした者で、幹事会が推薦し、総会で承認を得た者に対して授与する。

(10年以上の会員歴があり、を追記)

第一号～第三号議案は承認されました。

尚、名誉会員・有功会員として承認されたのは以下の先生方です。

名誉会員

大田 俊行 先生、岡部 英俊 先生、熊坂 一成 先生、
 富永 真琴 先生、宮 哲正 先生

有功会員

石原 法子 先生、浦山 修 先生、方山 揚誠 先生、
 川合 陽子 先生、坂本文比古 先生、戸塚 恭一 先生、
 服部 幸夫 先生、古谷 敬三 先生、森内 昭 先生

2019年度予算

		項目	2018年度予算	2019年度予算
収入欄	入金	会員会費	6,535,000	6,575,000
		賛助会員会費・寄付金	3,700,000	3,500,000
		小計	10,235,000	10,075,000
	その他	広告収入	400,000	200,000
		教育セミナー参加費	400,000	400,000
		生涯教育講演会参加費	150,000	200,000
		振興セミナー参加費	100,000	60,000
		利息	3,000	1,000
		小計	1,053,000	861,000
			入金合計	11,288,000
支出欄	庶務経費	事務所維持費	1,700,000	1,700,000
		人件費	1,650,000	1,750,000
		設備費	50,000	50,000
		電話・FAX使用料	60,000	60,000
		通信費(事務局)	170,000	170,000
		事務局雑費	150,000	150,000
	小計	3,780,000	3,880,000	
	事業経費	印刷代	2,000,000	2,000,000
		要旨印刷代	500,000	0
		通信費	800,000	800,000
		春季大会補助金	500,000	500,000
		臨床検査振興セミナー費	850,000	850,000
		教育セミナー費	650,000	650,000
		会議費	1,000,000	1,000,000
		交通費	100,000	100,000
		宿泊費	30,000	30,000
		原稿料	50,000	50,000
専門医ネットワーク維持費		100,000	100,000	
HP維持費	170,000	170,000		
広報活動費(委員会HP)	50,000	50,000		
JCCLS会費	50,000	50,000		
WASPALM会費	55,000	55,000		
臨床検査振興協議会	300,000	300,000		
内保連	200,000	200,000		
予備費	103,000	251,000		
小計	7,508,000	7,156,000		
		出金合計	11,288,000	11,036,000
		収支決算	0	0

【2018 年総会講演会報告】

第53回日本臨床検査専門医会総会に引き続き京王プラザホテルにて総会講演会が開催されました。本年は熊坂一成先生(上尾中央病院臨床検査科)に「今、臨床検査専門医・指導医に求められているもの」についてご講演いただき、宮地勇人先生(東海大学医学部基盤診療学系臨床検査医学)、奥住捷子先生(獨協医科大学附属病院感染制御センター)に追加発言をしていただきました。130名を超える会員の参加がありました。

【第65回日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告】

第65回日本臨床検査医学会学術集会における本会関連行事として以下の共催シンポジウムおよび共催ワークショップが開催されました。

<共催シンポジウム>2018年11月17日(土)9:00~11:00

「新専門医制度元年 一般市中病院での臨床検査専門医の役割」

<共催ワークショップ>2018年11月18日(日)9:00~11:00

「臨床検査の教育&キャリアプランを考える」

共催ワークショップは日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会と本会が共催しました。それぞれ多くの参加者を得て活発なディスカッションが行われました。

【2018年「全国検査と健康展」報告】

昨年秋、11月11日(金)「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展」(日本臨床衛生検査技師会、臨床検査振興協議会との共催)が各都道府県で開催されました。10月7日~12月9日まで、全国19会場、延べ37名の臨床検査医にボランティアとして「検査説明・健康相談」を担当いただきました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【2019年第88回教育セミナーのお知らせ】

2019年度日本臨床検査専門医会第88回教育セミナーは下記の要領で開催されます。本セミナーの目的は、臨床検査専門医に必要な知識・技術をこれから習得していこうとする方へのガイドを提供するものです。今年度臨床検査専門医認定試験受験予定の方を先着順に受付します。詳細は専門医会ホームページをご参照下さい。

日時：2019年5月19日(日)9:00~16:20(予定)

会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス(東京都千代田区)

参加費：10,000円

定員：80名

【第9回生涯教育講演会のお知らせ】

すべての会員を対象としたリスクマネジメントと検査室管理に関する講演会です。本企画は、日本専門医機構認定基本領域 臨床検査専門医更新のための「共通講習(感染対策)1単位」、「共通講習(医療倫理)1単位」にそれぞれ認定されています。参加証明書の配付、回収方法は、入場および証明書配付は開始15分後まで、退場および証明書回収は終了15分前から可能です。

開催日時：2019年6月1日(土)14:30~15:30…講演1

15:40~16:40…講演2

(第29回日本臨床検査専門医会春季大会の一部として開催されます)

開催場所：広島県医師会館

参加費：2,000円

講演1：「感染症診療における検査室の重要性」

(共通講習・感染対策1単位)

司会：高城 一郎(宮崎大学医学部附属病院
膠原病感染症内科 感染制御部 講師)

演者：大毛 広喜(広島大学病院 感染症科 教授)

講演2：「残余検体を扱う研究、進んでいますか？
—既存試料使用の倫理指針—

(共通講習・医療倫理1単位)

司会：米川 修(社会福祉法人聖隷福祉事業団
聖隷浜松病院臨床検査科)

演者：通山 薫(川崎医科大学 検査診断学 教授)

【2019年第29回春季大会のお知らせ】

大会長：横崎 典哉(広島大学病院検査部)

メインテーマ：「臨床検査専門医 Update!」

会場：広島県医師会館(JR広島駅より徒歩5分)

会期：2019年5月31日(金)~6月1日(土)

参加費：3,000円

<開催概要>

第1日：5月31日(金)

14:35~15:35：教育講演「臨床検査専門研修指導の実際」
(臨床検査領域講習1単位、指導医講習)

15:45~17:45：Catch up セミナー

(臨床検査領域講習2単位)

第2日：6月1日(土)

9:30~11:30：医療安全シンポジウム

(共通講習(医療安全)2単位)

13:20~14:20：特別講演「分子病理学の来し方・行く先と
がんゲノム医療における病理学」

(臨床検査領域講習1単位)

14:30~16:40：生涯教育講演会1,2

5月31日夕刻には懇親会も予定されています。奮ってご参加下さい。

懇親会：5月31日(金)18:00~20:00

懇親会費 5,000円 会場：広島県医師会館 201会議室

その他、全国幹事会：5月31日(金)13:00~14:20

総会：6月1日(日)11:15~12:00

が予定されています。

【2019年度第36回臨床検査振興セミナーのお知らせ】

本年度の臨床検査振興セミナーは下記の日程で開催を予定しております。プログラムについては決定し次第専門医会HPに掲載いたします。多数の会員の参加をお願いします。

日時：2019年7月19日(金)14:00~17:00

(終了後懇親会を予定)

会場：東京ガーデンパレス(東京都文京区)

【2019年度行事予定】

2019年の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があった際にはJACLaP WIRE、JACLaP NEWSでお知らせします。その都度ご確認下さい。

2019年

2月9日(土) 第1回常任幹事会(終了)

5月19日(日) 第88回教育セミナー

(帝京大学霞ヶ関キャンパス、予定)

5月31日(金)~

6月1日(土) 第29回日本臨床検査専門医会春季大会

第1回全国幹事会、第54回総会、

第9回生涯教育講演会

7月19日(金) 第36回臨床検査振興セミナー
8月頃 会長・監事選挙
9月7日(土) 第2回常任幹事会
11月10日(日)を中心として 全国検査と健康展
11月21日(木)～
24日(日) 第66回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)
第2回全国幹事会、第55回総会・講演会
12月21日(土) 第3回常任幹事会(新旧合同)
*2020年春季大会(橋川照人大会長・鹿児島大学)は、現時点
で2020年5月15、16日に開催を予定しています。

【臨床検査振興協議会ノベルティグッズのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協議会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイル、ステッカーシール等のノベルティグッズを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等にこれらのグッズを無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求下さい。

【2019年度会費振込のお願い】

2019年度(平成31年度)の会費振込用紙をお送りしますのでお振込をお願い致します。未納分のある会員の方々は合計額をお振込下さい(納入状況は振込用紙に記載致します)。名誉会員の年会費は免除となっております。

2019年度(平成31年度)年会費：1万円

2019年度(平成31年度)(平成31年1月1日現在、
70歳以上の方)：5千円

郵便振込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、勤務先等の変更内容は上記の通り事務局へもご連絡下さい。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

TEL 03-3864-0804 Fax 03-5823-4110

E-mail: senmon-i@jaclp.org

【医学部における臨床検査医学教育の実態調査のまとめ～その1～】

日本臨床検査専門医会

登 勉、米川 修、本田 孝行

口 はじめに ～アンケート調査の背景～

2017年3月26日、2016年度日本臨床検査医学会定時社員総会・講演会(東京大学医学部教育研究棟 鉄門記念講堂)で「地域医療構想と臨床検査～臨床検査関連団体は2025年問題にどう取り組むべきか?～」のタイトルで講演したが、医学教育における2023年問題についても触れた。2010年9月、米

国の公的機関である「ECFMG(Educational Commission for Foreign Medical Graduates; 外国医学部卒業生のための教育委員会)」は、米国の医師免許試験の受験資格について、「2023年以降、国際的な認証を受けた医学部の卒業生であることを必須化する」と通告した。これが、いわゆる「医学教育における2023年問題」である。「2023年問題」への対応を契機として、国際的観点からわが国の医学部における教育の質を保証する目的で日本医学教育評価機構(JACME: Japan Accreditation Council for Medical Education)が2015年12月に発足した。

2016年9月1日、第63回日本臨床検査医学会学術集会(神戸国際会議場)第1日目に開催した日本臨床検査専門医会総会・講演会で Brian R. Smith らの Academic Medicine 誌論文によると米国の医学部における臨床検査医学教育には大いに改善の余地があると結論されていることを紹介した。前述の「2023年問題」と併せて考えると、わが国における臨床検査医学教育の質の保証には、教育・研究を担当する臨床検査医学講座が必須であることは議論するまでもないと思われる。しかしながら、この認識は臨床検査医学分野関係者に限られたものであって、全国の臨床検査医学講座の現状は教授の定年退職に伴って講座が改編ないしは改廃される例が増えてきている。このような動向に対し、日本臨床検査医学会は2015年3月28日に「臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって～日本臨床検査医学会の考え方～」を公表し、さらに2018年7月7日には「大学医学部における臨床検査医学講座の重要性～日本臨床検査医学会の考え方～」を理事会承認文書として公表した。これらの意見表明にも関わらず、現状には大きな変化が見られていない。この問題に最も関係の深い我々が、わが国の医学部における臨床検査医学教育の実態を調査し、現状を把握することから今後の方向性を議論することが重要と考え、アンケート調査の実施を日本臨床検査専門医会常任理事会に諮り、本田孝行副会長(当時)と教育研修委員会米川修委員長を責任者として調査を実施することを決定した。

本田副会長は日本臨床検査医学会教育委員会委員長を兼務していたので、同学会の了解を得て合同で2017年6月にアンケート調査を実施した。

次号よりアンケート結果を項目別に提示していく。その結果より、現在の臨床検査医学教育の実態を把握いただければ幸いである。

【会員の声】

臨床検査医を目指すことになった動機

今年は医師生活で2度目の転職となりました。3度目の「研修」が始まったのです。すでに他分野の専門医を取得後の15年目を過ぎた医師が、なぜ再び「研修」を選択したか…改めて、振り返ってみたいと思います。

この転職のはじまりは、出産・育児でした。子育てが始まってから、自分の都合で動くことが難しくなり、子供中心の生活にシフトしています。育児休暇からの復職を少し不安に思っていたところ、復職の数ヵ月前に、「検査医」になってくれないかと勤務施設の事務部門からお声掛けがありました。検査医の先生が急遽ご退職となったため、産休前は毎日のように感染症検査室に出入りしていた自分に、白羽の矢が立った様子でした。育児中という状況に対するご配慮もあったかもしれませんが、自分の復職前には、検査医を引き受けて下さる先生が無事に見つかりましたので、実際に検査医になるのは少し先の話と考えていました。

その後、復職して勤務を継続する中で、検査専門医を目指すきっかけが幾つかありました。子育て中は少しでも時間管

理をしやすい状況を作りたいと感じたことや、産休・育休明けで知識を Update できていない現実直面し、網羅的に勉強しなおしたいと考えたこと、検体管理加算の要件を満たす仕事をするには「専門医レベル」の知識が必要と感じたこと。専門医制度が変更となり、ハードルが上がるのではという話もありましたが、自分の気持ちが前向きな時に取り組みたいと考えました。

さて、専門医研修を受けるにあたって、所属長の理解を得ることと、研修先を探すことが必要でした。前者は複数回の面談の結果、最終的に自分自身で決めて良いというお返事を頂くことができました。後者は自宅から通えることを前提にすると複数の選択肢がありがりましたが、昨年度の学会参加時に、数年ぶりにお会いした九州大学の後藤和人先生に、名刺を頂いていたことが功を奏しました。まさに「ご縁」だと感じております。

この原稿を書いている時点で、研修が始まって2ヵ月です。年寄りの冷や水を具現化するように、久しぶりの電車通勤と慣れない業務、家庭生活との両立(?)で体調を崩したりもしましたが、夫の全面的な協力のもと、なんとか研修も母親業も継続できています。

最後になりましたが、研修生として受け入れて頂いた九州大学検査部の康東天教授、内海健准教授、堀田多恵子技師長、仲介の労を執って頂いた後藤和人先生に心より感謝致します。

(九州大学病院検査部 吉野 麻衣)

臨床検査専門医取得までの軌跡とこれから

三重大学医学系研究科修復再生病理学の橋詰令太郎と申します。私は、1997年に浜松医科大学を卒業し、2年間の初期研修を含めて計10年間、愛知県の小牧市市民病院にて臨床医(心臓血管外科)として勤務致しました。その後、米国ピッツバーグ大学のマクゴワン再生医学研究所(McGowan Institute for Regenerative Medicine; MIRM)にて再生医学に関連する研究に約5年間従事しました。その後2012年に帰国し、現在に至るまで三重大学で研究を続けながら、病理医としても働いております。帰国後三重大に赴任する際は、臨床検査専門医会の現会長の登勉先生が研究科長(医学部長)をされており、辞令交付式では、「アメリカに何年いたんだ?」「何の研究をしていたんだ?」と強面に詰問されて、すっかり震え上がったものです。前後しますが、帰国直前まで名古屋大学の大学院生の身分でもあり、学位はここで取得しております。

さて、いわゆる病理診断業務も広義の臨床検査医学の一分野ではありますが、臨床検査医学にさらに身を寄せることになったのは、三重大検査部の中谷中教授の御指導の下、数年前より大学病院の遺伝外来で仕事をさせて頂く機会を頂き、遺伝学的検査や結果解釈にたずさわらようになってからです。遺伝学は誠に奥が深く、毎日勉強の日々であり、神経変性疾患など一般病理業務では遭遇する機会の少ない数多くの疾患 entity と直面し新鮮であると同時に、遺伝外来における悩みの多くは、つまるところ、当該疾患に対し根本的治療が存在しないことに起因することを痛感しております。このような思いも手伝い、研究面では、トリソミー等の染色体の異数性疾患の細胞レベルでの核型正常化治療法の確立を目指して基礎的な研究に励んでいます。いわば細胞内レベルでの再生医学と考えております。

さらに近年、三重大学病院では中谷先生主導の下、がん遺伝子パネル検査が開始され、外来およびFFPEブロックからのマニュアルダイセクション、エキスパートパネルでの討論から報告書案の作成を行う機会を得、いわゆるゲノム診療にたずさわらようになりました。ゲノムブラウザなどの利用や

シーケンスなどは、以前より研究面で行っており、検査工程の理解という点ではある程度の下地があったものの、研究と異なり、そこには検査を受検される、一つの人生を歩んできた「人」が毎回おられ、臨床検査としての重みに直面することになりました。

このような経緯の中で、中谷先生や当時の三重大病理学の白石教授から勧められ臨床検査専門医試験を受験する運びとなりました。三重大学病院の中央検査部の臨床検査技師の皆様には、実技指導を通じて格別な高配を賜り誠に感謝しております。しかし、これまで受験した他の専門医試験と比べると、ひどく難解な問題が多く、この問題に関しては大丈夫だろうという感触を持てる問題が極端に少なく、したがって非常に後味の悪い試験というのが試験終了後の率直な感想です。不合格は確実と半ば考えていたところ、奇跡的に合格通知を拝受し、何とか人の温かみのようなものを感じました。今後は、臨床遺伝専門医の取得を視野に入れて遺伝学的検査、ゲノム診療に邁進し、とりわけ研究を通じて医学のボトムアップに幾許か貢献できたらこれ以上望むことはありません。今後とも本稿をお読み頂いている皆様には、御指導の程よろしくお願い申し上げます。

(三重大学医学系研究科修復再生病理学 橋詰令太郎)

臨床検査専門医に加えていただきました!

日本臨床検査専門医会のみなさま、初めまして。このたび検査専門医の一員に加えていただいた横浜市立大学附属病院臨床検査部 山崎悦子です。私は筑波大学を卒業後、横浜市立大学およびその関連施設で約20年に渡り血液内科医として働いてきましたが、2015年4月に病院内人事で、それまでのリウマチ血液感染症内科講師から、臨床検査部部长へ異動となりました。門外漢である検査領域へ、しかも管理者としての異動、それも前任および前々任の部長が二人続けて1年ずつの在任期間、とあってたいへん戸惑いました。しかし、日本臨床検査学会の先生方に色々丁寧なご指導を頂き、少しずつ検査領域に歩を進めてまいりました。3年が経過してようやく検査専門医受験資格が得られましたので、今年に入った頃より受験準備を始めました。検査専門医試験はその広大な範囲が、最初から高い壁です。総合内科専門医として培ったはずの知識はどこへやら、脳波や超音波といった生理機能領域は、本当に一からの勉強が必要でした。血液内科医としての蓄積で、血液領域は大丈夫!と思っておりましたが、そこもまず間違い。診断や治療は十分理解していても、その大前提となる検査は臨床医としての知識では賄えないものが多くありました。また、関連が深いはずの輸血領域の実技なども検査技師に多くの指導をしてもらい何とかこなした感じでした。もともと血液リウマチ感染症内科ですから、微生物も一般臨床医よりは強い、と思っていたのも大きな勘違い。微生物検査室には毎朝通って培地の確認を技師と一緒にさせてもらって、なんとか知識を身につけました。本当に今回の試験準備は、当院検査技師に多くのことを教えてもらいました。そして、日本臨床検査専門医会によって開催される「教育セミナー」では、受験に必要な知識の多くを網羅的に叩き込んで頂きました。「この試験に受からなかったら、私は辞職する」と言い放っていたこともあって、試験当日まで入念な準備をしたはずでした。が、試験が始まってみると、わからない問題ばかりで、本当に検査領域って奥が深いなあ、と今更ながら試験会場で実感したのでした…

そんなこんなで、何とか臨床検査専門医の一端に滑り込ませていただいた感のある私ですが、これからはこの専門医資格を活かして活動をしていきたいと存じます。検査と臨床をつなぐ専門医として、より潤滑な診療を支援するため検査に

関する情報を適宜発信し、また、横浜市立大学には、現在臨床検査専門医は私を含めて2人しかおりませんので、これからは、検査専門医を育てる側に回らなければならないと感じています。まだまだ専門医会の先生方の御指導を頂かなければならないことも沢山ございます。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

(横浜市立大学附属病院臨床検査部 山崎 悦子)

臨床検査専門医試験を受験して

順天堂大学臨床検査医学科の一色美和と申します。平成30年度の臨床検査専門医試験に合格し、新たに臨床検査専門医となりました。私は平成15年に東海大学医学部を卒業しました。夫の海外勤務、出産育児のため、医師としてのキャリアは約5年間中断した時期がありましたが、研修医時代の友人の勧めもあり、平成26年に順天堂大学臨床検査医学科に入局しました。以後、未就学児二人の子育てと大学院での論文作成、臨床検査専門医の研修をなんとか両立してきました。専門医研修に際しては、三井田教授はじめ医局の先生方に丁寧にご指導いただきました。また、検査技師の方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。現在、日常業務で骨髄像の判読を中心に行っていることもあり、血液学、微生物学、尿検査の鏡検は楽しく学習することができました。一方、総論遺伝子検査学、免疫輸血学、生化学、生理学などは知識を整理して習得するのが大変でした。5月の教育セミナーに出席し、分からなかったところを自分なりに調べ、試験対策ノートを作り、なんとか頭に入れていきました。20代のころまでの自分と比較して、記憶力の低下に愕然としながらも、細々前進できるよう努力を重ねました。

近年、家族をサポート応援する立場で日々を過ごしてきました。とくに出産後は子どものペースに合わせて動くのが当たり前で、何事も予定は自分の都合では決められない日々です。お迎え、夕食からの時間は毎日嵐のようで、子どもと一緒に夜9時ごろ寝落ちしてしまう中、早朝に試験勉強をすることにしました。今年の夏は猛暑だったこともあり、比較的涼しい朝は、静かで集中できました。なかなか思うように頭に入らないときはもどかしい思いも多々ありましたが、勉強の間は自分の為だけに時間を使っているということが嬉しかったです。また、試験の日には家を出るときに子どもたちに「頑張ってね」と応援されたのが新鮮でした。

専門医試験の初日は、とにかく時間が足りなくて、解答を終わらせるだけで精一杯でした。全く見直しができなかったため不安でした。帰宅後は分からなかった事柄や知識があやふやだった部分の見直しに全力で取り組みました。夫に子どものことをすべて頼み、私は別室で2日目へむけた試験勉強に集中させてもらいました。2日目の実技試験は緊張しましたが、

1日目に比べると時間配分を上手にできるようになりました。

無事合格の知らせを頂きほっとすると同時に、今後も臨床検査専門医としての研さんを積んで学び続けていきたいと身の引き締まる思いです。試験に際しお世話になった皆様方に、この場を借りて心より御礼申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(順天堂大学医学部臨床検査医学科 一色 美和)

【編集後記】

前回132号発刊から時間が空いてしまい、大変申し訳ありません。そのため、本号における新入会員、退会会員数が多くなってしまったことをお詫び申し上げます。

さて、この編集後記を書いているのは3月18日なのですが…本日は第113回医師国家試験の合格発表日。無事合格した教え子達から喜びのメールが続々と入ってくる中、惜しくも不合格だった子から“国家試験、ダメでした。たくさんたくさんお世話になったお礼を今年で返せなくて申し訳ありませんでした。来年こそは直接朗報をお伝えに参ります！”とのメール。第113回は、受験者10,146人に対して合格者数9,029人(合格率89.0%)でしたので、下位1,117人に入らない勉強をすれば良いだけ、そもそもそんな程度の医学知識で医師にするのは危険じゃないか…というのは正論なのですが、彼が1年間コツコツと努力してきた姿を側で見ていたこと、そして結果発表をみた後、どんな気持ちでこのメールを打ったのだろう？と思うと、どうにもやるせない気持ちに。自分は毎年6年生を担当しているので、このような事は初めてではないのですが、毎回“正論と感情の折り合いをつける”のは難しいと感じています。彼にはもう1年間頑張ってもらい、来年こそは見事な桜を咲かせて欲しいと願っています。

(編集主幹 聖マリアンナ医科大学 臨床検査医学講座 五十嵐 岳)

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。

E-mail: senmon-i@jacplp.org

日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：佐藤尚武、〆谷直人(渉外委員会委員長、全国検査と健康展担当)

庶務・会計幹事：東田修二

常任幹事：五十嵐岳(広報委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

監 事：佐守友博、土屋達行

全国幹事：浅井さとみ、伊藤弘康、植木重治、大澤春彦、木村秀樹、久川 聡、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松井啓隆、松下一之、松村敬久、藤井 聡、横崎典哉

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：五十嵐岳、出居真由美、後藤和人、信岡祐彦、福地邦彦、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jacplp.org